

## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

## Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記 ; 奥付
Sub Title	
Author	田谷, 文彦(Taya, Fumihiko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.11, (2010. 3) ,p.8- 8
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000011-0100">http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000011-0100</a>

## 研究員紹介

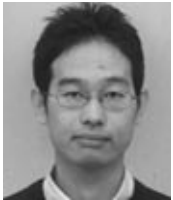


### 馬場鉄兵

バークリー哲学における意識と外界のつながり

2009年4月より、グローバルCOE非常勤研究員になりました馬場鉄兵と申します。私の研究はジョージ・バークリー(1685-1753)の思想を明らかにすることです。とりわけ、意識と外界に関する彼の見解に関心があります。彼が生きた時代ではニュートンをはじめ、科学が大いに発展しました。しかし、五感によっ

て意識されるもの—とりわけ色・味・匂いといったものは、科学的世界のみに位置づけられませんでした。そうした現象的なものは意識の中のみある主観的なもの・仮象として捉えられるようになりました。バークリーはこうした見解に反対し、現象的なものこそ実在するものであると主張しました。私のこれまでの研究は、彼のこの見解に論理的な不整合がないかどうかを検討することでした。今後は、彼の著作である『視覚新論』に焦点を当て、この見解の意義を、視覚というより具体的な観点から掘り下げていきたいと考えています。



### 秋吉亮太

今年度から非常勤RA研究員としてお世話になっています哲学・文化人類学班の秋吉亮太です。専門は数学の哲学と証明論を中心とした論理学です。

数学の哲学の代表的な立場に、数学的推論の「論理的」で堅固な面をベースにする形式主義と、より心的な側面ないしは数学的対象の構成という面を重視するいわば「感性的」な面を

重要視する直観主義という対立する二つの立場があります。これまで形式主義と直観主義を哲学・論理学の両面から学際的に研究してきましたが、最近では形式主義的な立場の元で発展してきたヒルベルト以来の証明論(特に三段論法がいらぬことを主張するカット消去定理)を、対立する枠組みである直観主義的立場から再構築するという研究をスタンフォード大学のミンツ先生と共同で進めています。

本プロジェクトのテーマである「論理と感性」というテーマに引き付けて解釈するならば、私の最近の研究は数学的推論における「論理と感性」のバランスを研究しているといえるでしょう。



### 島田純理

私は昨年の秋に米国MITの言語学博士課程を修了し、12月からCARLSに参加させていただいています。私は言語学の分野の中でも、特に形式意味論やその統語論とのインターフェイスを研究しています。博士論文では、ものの存在を主張する文の意味について取り組みました。従来、このような文の意味は存在量子を用いることで分析されてきましたが、私はこの

方法では正確に意味を捉えることができない文があることを示し、この問題の解決のため数学の測度論を応用し、存在を主張する文の真理条件をルベグ積分を用いて表す新しい意味論の基礎を完成させました。今後の研究課題は、博士論文では議論できなかったより多様な文の意味も正しく分析できるように、現在の理論を拡張していくことです。これには、時制(テンス)や相(アスペクト)が本質的に関わっていると考えられ、それらの統語論と意味論両面からの解明に取り組んでいます。

## 事務局だより

### 活動予定

#### ■ フィクションの哲学

開催日: 2010年3月27日(土)  
会場: 三田キャンパス東館4F セミナー室  
講演者: 清塚邦彦(山形大学)、森功次(東京大学)、鈴木生郎(塾内文学研究科)、飯田隆(哲学・文化人類学班)

#### ■ 慶應義塾大学グローバルCOEシンポジウム 世界を舞台に成長を続ける若手研究者たち 一次世代を担う若手研究者にグローバルな活躍の場を提供する組織的な取組み—

開催日: 2010年4月17日(土) 11:00~17:30  
会場: 慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール  
参加費: 入場無料 参加ご希望の方は事前にお申込ください。  
主催: お問合せ: 慶應義塾 研究支援センター本部  
<http://www.ora.keio.ac.jp/sympogcoe/>  
[sympo-gcoe@adst.keio.ac.jp](mailto:sympo-gcoe@adst.keio.ac.jp)

**編集後記** 2009年度、最後のNewsletterをお届けします。今号は、12月から2月の活動報告を中心に構成されています。年末年始を挟んだこの時期は、数多くのシンポジウムや若手報告会など、イベントが目白押しでした。その全てを報告することができないのが残念ではありますが、それらのイベントや報告を通じて、本拠点がカバーする研究領域の多様さや研究ネットワークの広さに改めて感嘆しました。今後、さらに学際的な研究を進める上で、Newsletterが潤滑油の役割を果たせればと願います。最後に、ご多忙の中、ご協力頂きました執筆者の方々に、心より感謝申し上げます。(田谷文彦)

### 新刊本紹介

#### ■ 2009年度成果報告書・活動報告書

2009年度における本拠点の研究成果をまとめた報告書2冊をご紹介します。CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility, Vol.3 は事業推進担当者や特別研究教員・研究員、研究協力者らの今年度の研究成果をまとめた論文集(欧文)です。

『論理と感性の先端的教育研究拠点 活動報告書 Vol.3』は、今年度開催したシンポジウム・研究会等の布告と拠点メンバーの著書・論文、学会発表等の業績をまとめたものです。入手方法につきましては、事務局までお問合せください。



慶應義塾大学 論理と感性の先端的教育研究拠点  
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility  
Newsletter 2010. March. No. 11

発行日 2010年3月25日  
代表者 渡辺 茂  
〒108-0073 東京都港区三田3-1-7 三田東宝ビル7F・8F  
TEL: 03-5427-1156  
FAX: 03-5427-1209  
[keiocarls@info.keio.ac.jp](mailto:keiocarls@info.keio.ac.jp)  
<http://www.carls.keio.ac.jp/>